

DXによる経営の高度化

TDX推進プロジェクト

東レは、DX(デジタルトランスフォーメーション)による経営の高度化を重要課題に掲げ、2020年度に組織横断で開始した「TDX推進プロジェクト」をグローバルに展開しています。DX推進の全社方針を検討・協議する機関として社長を委員長とする「TDX推進委員会」を設置し、その下部に「技術センターDX推進委員会」と「事業DX推進委員会」を置き、部署単位での取り組みに加えて、全社横断で推進しています。

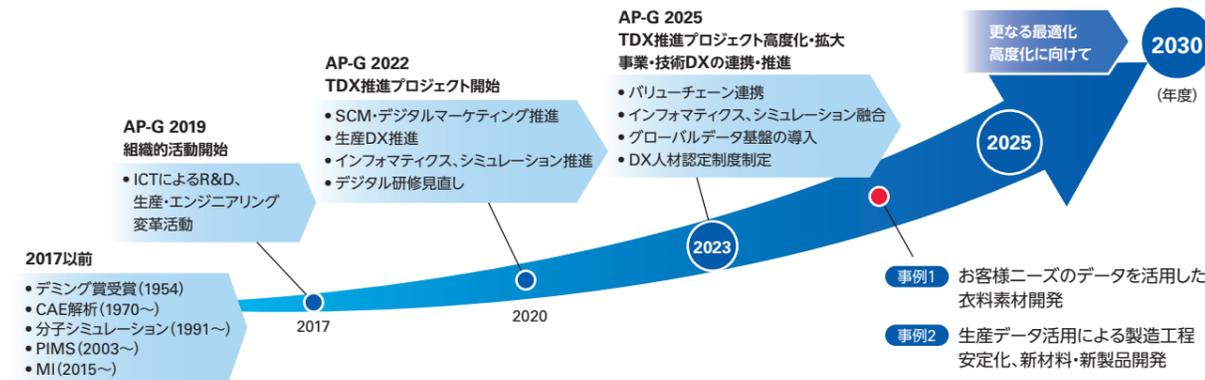


現場密着型DXの推進

東レは過去からデータと先進デジタル技術活用に積極的であり、1970年代のCAE解析やPIMS(Plant Information Management System)導入に代表されるように、先進デジタル技術活用による開発、データの取得とそれに基づく改善や効率化を推進してきました。2020年に開始した「TDX推進プロジェクト」では、その活動を拡大・加速し、より多くのお客様や社会のニーズに合った製品やサービスの創出をすることを目標に、コスト競争力強化、経営管理の高度化などの課題を達成するため、「現場密着型」でデータとデジタル技術の活用を推進しています。

前中経期間(2019-2022年度)では、SCM(サプライチェーンマネジメント)の効率化・高度化により、意思決定プロセスの

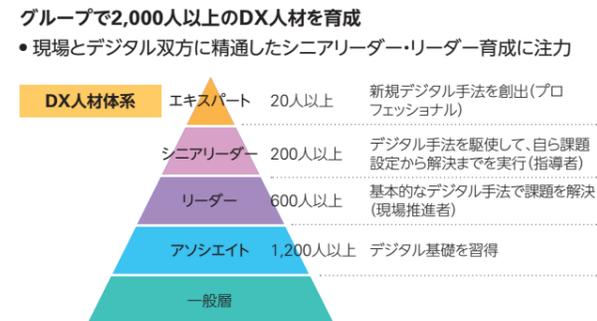
変革・迅速化を図るとともに、MI(マテリアルズ・インフォマティクス)の活用により材料開発の効率化と高度化を推進するなど、着実に成果をあげてきました。AP-G 2025では、更に活動を高度化・拡大し、バリューチェーンの連携強化、インフォマティクス・シミュレーションの融合による業務の効率化・高度化にも力を入れています。このように、業務領域を問わず、データ化・デジタル化を進め「見える化」を確実に実施したうえで、データの活用レベルを「高度化」し、更には「予測・最適化」へとデータ活用の高度化を図るとともに、生成AI等を活用した業務の効率化・高度化もあわせて進めるなど、あらゆる場面でDX推進を加速します。



DX人材の育成

「TDX推進プロジェクト」を支えるために、DX人材の育成にも力を入れています。現場を理解し、デジタル技術をツールとして使いこなし、改善をリードする人材を育成するため、2020年度より教育プログラムを拡充し、2023年度にはDX人材認定制度を開始しました。

2025年度末までにグループで2,000人以上のDX人材育成を目指して活動しており、目標に向けて順調に進んでいます。



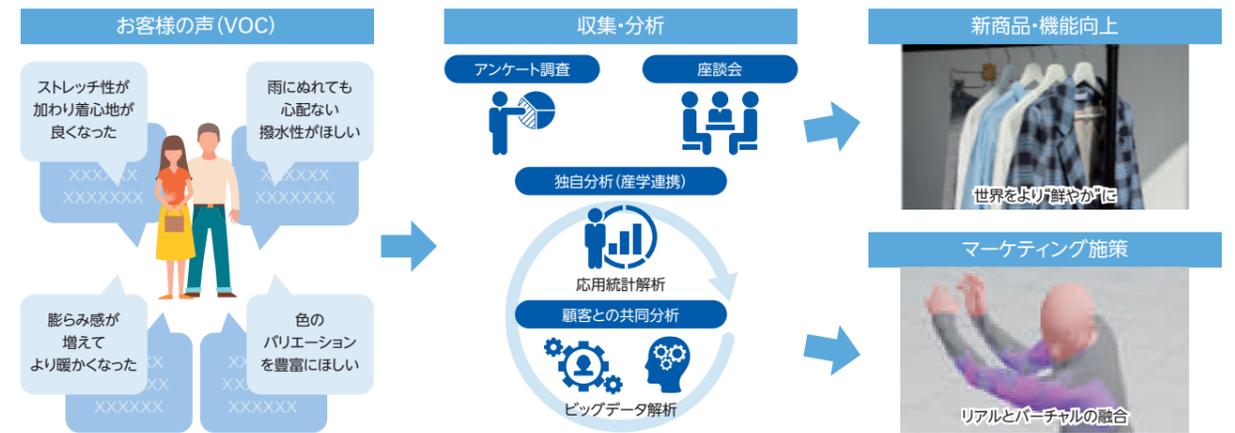
事例1

お客様ニーズのデータを活用した衣料素材開発

アパレル商品について、最終消費者であるお客様の声(VOC / Voice Of Customer)を独自で、またはリテールの顧客と協力して収集し、素材の開発に活かしています。具体的には、アンケート調査や座談会などにより貴重なVOCを収集、分析し、現行商品のアップデートの検討や、まだ世の中にない商品の探索を行います。産学連携による更に深いデータの分析も取入れることで、サステナブル素材の開発促進、撥水性の高いアウターや天然繊維とのハイブリッド素材など

のヒット商品開発ができました。

また、商品開発だけでなく、機能などの“価値に感じるポイント”をお客様にどうお伝えするか、どうしたら感動をお届けできるかを考え、マーケティング施策につなげています(3DCGを活用したバーチャルシミュレーションによる着心地の見える化など)。グローバルに広がる開発活動の中で、気候や文化の異なる海外のVOCを広く分析することが、新たな素材の開発に大いに活かされています。



事例2

生産データ活用による製造工程安定化、新材料・新製品開発

当社には製造工程や研究・試作で膨大な蓄積データがあり、各製品分野で生産データを活用してプロセス革新と新材料・新製品の研究・技術開発を連動し、メカニズム解明に基づく工程改善と革新的な新製品の開発を進める取り組みを推進しています。トレライト NV®は、透析時に利用される人工腎臓であり、無数の中空糸から構成されています。データ

解析、シミュレーションなどのデジタル技術を活用し不良要因抽出やメカニズム解明を進めることで設備や製造条件につなげています。更にリアルタイムでのデータ解析や予兆管理にも活用を進めています。また、データ解析やメカニズム解明の知見を、糸径の縮小など、透析患者の負担低減につながる次世代小型品開発の知見獲得にも活用しています。

